

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称	平成 27 年度第 3 回所沢市高齢者福祉計画推進会議
開催日時	平成 27 年 10 月 29 日(木)午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
開催場所	市役所 7 階研修室
出席者の氏名	水野委員・倉部委員・高野澤委員・生澤委員・米川委員・市川委員・小原委員・吉本委員・稲津委員・柴井委員・佐藤委員・根本委員・篠崎委員・大島委員・大川委員・石原委員・瀧本委員・
欠席者の氏名	浜島委員・大島委員・斎藤委員
議 題	(1) 医療・介護・福祉連携について (2) 地域包括支援センターの運営状況について (3) 報告事項
会議資料	会議次第 委員名簿 所沢市高齢者福祉計画推進会議について 資料 1 医療・介護・福祉連携について 資料 2 地域包括支援センターの運営状況について 報告資料
担当部課名	福祉部 本橋部長、植村次長 高齢者支援課（池田課長、新井主幹、滝澤副主幹、吉永副主幹、築地主査、坂田主任、宮川主任、伊藤主任） 介護保険課（仲課長、平林主査、長浜主任） 健康推進部 保健医療課（岸課長） 健康づくり支援課（淵江課長、松本主査） 事務局 福祉部高齢者支援課 電話 04-2998-9120

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>開会</p> <p>委員により会議の公開が承認され、傍聴者が入場する（4名）。</p> <p><u>議題（1）医療・介護・福祉連携について</u></p> <p>事務局（築地主査）より、資料1に基づき説明を行う。</p>
委員	<p>個人的な意見として、所沢市の医療・介護・福祉の連携は進んでいると思う。資料1の5ページをご覧ください。下段に記載のある、埼玉県西部保健医療圏在宅検討会議に参加した際に他市の状況を聞く機会があった。現在、所沢市では事務局から説明のあった8項目について、すでに取り組みが行われているが、他市では行われていない場合やこれから検討する場合などがあった。</p> <p>所沢市で医療・介護・福祉連携が進んでいる要因として、在宅医療に取り組む医師が多いことがあげられる。他の市では在宅医療をする先生がいるけれども、数が足りていないという印象であった。</p> <p>6ページに記載のある医療職・介護職連携会議合同交流会では数百人の規模で参加者がある会があったし、一般の方の参加もある。医療職介護職と一緒に勉強するという流れがある。</p> <p>介護サービス事業者連絡協議会では、ケアマネジャーや地域包括支援センターやヘルパーの方、看護師や福祉用具の業者などが連携をしている。</p>
委員	<p>介護保険サービス事業者連絡協議会では交流会を行っており、みんなで勉強していこうという意識が高まっているのを感じている。</p>
委員	<p>事務局の説明に補足するが、医療介護連携支援センターが保健センター内に、10月1日より開設された。現在17の医療機関が登録している。在宅療養ベッドについては6病院の登録がある。使えるのは事前登録した患者となるので、今後増やしていきたい。</p>
委員	<p>所沢市では、平成27年度の法改正前から、医療・介護・福祉の</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>取り組みが行われている。平成27年度の法改正以降は、目的が明確化され、より連携が深まることが予想されている。住み慣れた地域で安心して暮らすという目標のもと、グループワークや会議などの取り組みが行われている。</p> <p>連携する圏域の課題があるが、包括圏域を基礎に考えていくのがいいのではないかと思う。</p> <p>私は両親の介護をした経験があるのだが、専門職の方々が連携の取り組みをしていただいて、心強く思っている。介護している側としては、高齢者は年を取ればとるほどできることが少なくなってしまうので心配になることが多かったが、今は専門職の方が連携していただいて、相談する窓口が多くていいと思う。</p> <p>介護をしているときはいつまで続くか不安があったが、今は専門職の方が情報交換されているということで頼りになる。介護に従事している人も情報を得られるといいと思うので、情報交換の場に一般の介護従事者も出て行ってほしいと思った。</p>
委員	<p>介護を受ける側として発言したい。講演のテーマにある、最期という言葉は適切でないと思う。死亡したら終わりというイメージを受ける。また、おだやかにという形容詞についても、おだやかに死ぬ人ばかりでないと思う。介護を受ける側に立って考えていただきたい。</p>
委員	<p>介護されている方が非常に苦勞されているということをよく耳にするが、たとえばトイレのドアをツードアにするなど工夫を凝らせばもう少し楽にすることができると思う。</p> <p>訪問介護や訪問医療は進んでいると思うが、介護の方はまだよくしていく余地があると思っている。</p>
事務局	<p><u>議題（2）地域包括支援センターの運営状況について</u></p> <p>事務局（吉永副主幹）より、資料2に基づき説明を行う。</p>
委員	<p>総合事業移行後のケアプラン作成について、委託をするのか、地域包括支援センターで作成するのか、いつごろ周知をするのか教え</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>ていただきたい。地域包括支援センターの人員配置なども変更して いかなければならない。</p>
事務局	<p>大幅な業務の変更は考えていない。総合事業になってもケアプランの作成を委託することは可能であると考えている。</p>
委員	<p>要支援の認定者の増加が多くなっているが、他市でみられるように要支援の認定を減らしていく予定はあるか。</p>
事務局	<p>所沢市の平成26年度末の要介護認定者数は13,162名で、要支援の数は4,182名だったので、割合としては31.8%となる。指摘のとおり所沢市では要支援の割合が多い。所沢市では審査の適正化、平準化の取り組みを行っている。判定方法についても、他市と違う点はない。他市では認定の申請時点で制限を設けている例もあると聞くが、所沢市ではそういった制限を設ける予定はない。</p> <p><u>報告事項（1）生活支援コーディネーターについて</u> 生活支援コーディネーターについて、所沢市社会福祉協議会に、本年の10月より委託することが決まった。</p> <p><u>報告事項（2）西武ライオンズについて</u> 所沢市では、早稲田大学と西武ライオンズで産官学の共同研究を行う予定である。研究の内容は野球観戦の介護予防効果等について研究しようというものである。今後参加者を募集していく。</p> <p>閉会にあたり、副委員長より挨拶がある。</p> <p>閉会</p>